

9月 21日(月曜日)「立派な信仰」

【新改訳 2017】

ルカ 7.1-10

「……『主よ。わざわざおいてくださいませんように。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は……ありません。……伺うことさえ失礼だと存じました。ただ、おことばを……ください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。』」(6、7 節)

これは、ローマの軍隊の一将校が自分のしもべが病気で死にかけた時に、使いの者を通して話されたことばの一部です。彼は異邦人でした。

主は、これを聞いて驚かれ、彼の信仰をほめて「このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことはありません。」と言われました。どのように立派だったのでしょ  
うか

- ① 自分については実に謙虚だったこと。
- ② 主イエスに対してはまったく信頼していたこと。
- ③ 呪術的な儀式や行為ではなく、おことばを求め、そこに権威と力を認めていたこと。

④しもべに対する思いやりがあったこと。

要点は以上でしょう。言うまでもなく、しもべは癒されました。

新約のイスラエルと言われる私たちキリスト者の信仰はどうでしょうか。

～祈り～

主よ。この百人隊長のような信仰を与えてください。あなたのおことばを、あなたご自身のように信頼することができますように。

**【学びのために】**

ローマの軍隊の一将校は、百人隊すなわち百人編成の部隊の隊長。ルカ 23.47、マタイ 27.54 参照。